長洲町立長洲小学校　校長便り　№１０８

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年７月１８日(火)

私の夏休み～小学校編～

７月も中旬に入り、夏休みを指折り数えている子供達も多いようです。各ご家庭でも色々なご計画があるのではないでしょうか。コロナ禍による制限もない夏休みですので、工夫を凝らした夏休みになりそうですね。

さて、私にも５０年近く前、小学生時代がありますので、子供達と同じように夏休みを楽しみにしていた時期があります。あまりおりこうさんではない私がどのような夏休みを過ごしたか、少しお喋りしてみたいと思います。

１学期の終業式では通知表をはじめ多くの宿題も出ます。夏休み前半は色々な意味で気合が入っていますので、一応夏休み中の計画も立てます。７月中に宿題を終わらせて、「８月は夢のような夏休みを過ごす」という本当に夢のような計画を立てます。夏休みの宿題には「１学期のまとめ」等という、夏休みまでの学習のまとめの教材が配られていました。私達のようなお調子者はこの教材に最初に取り組みます。無計画に。解答まで付いていて答え合わせまで済ませてから提出等と、私達にとっては有難い宿題でした。この教材を終わらせると、ずいぶん宿題を済ませた気分になり、ちょっと息抜きと言ってみんなで遊んじゃう訳ですね。もう、こうなると時間の感覚など無くなってしまって、あっという間の７月終わり、あっという間のお盆、あっという間の８月末と過ぎていきます。

夏休みの間、何をしているかというと…。いくつか紹介しましょう。虫取りはほぼ毎日言っていました。ラジオ体操の後、朝飯前に近くの山に行ってクワガタやカブトムシを取ってきます。帰りが１時間ほど遅くなるので母が怒鳴りつけます。「どこ行っとったね？」しかし、母もどこに行っていたのかくらいは把握していますので、ゲンコツ一発で終わりです。平日は、一応午前中に宿題等をやるのが日課でした。昼からは、川釣りに行っていましたね。近くに八景水谷水源地がありましたし、ちょっと遠出すれば坪井川や白川が流れているので、自転車さえあればどこへでも行けました。（自転車で校区外にはいってはダメです。）釣ってきた魚はもちろん食べます。ハエ（オイカワ）を両親に甘辛く煮てもらって食べていましたね。

夏休みの終わりに宿題を確認すると、残っている宿題は、作文、読書感想文、読書感想画…。中でも一行日記などは、毎日書いていなければ後で苦労するものです。夏休み後半には当時始まった２４時間テレビを見ながら、そして泣きながら宿題に取り組んだことを思い出します。２学期の始業式では宿題の半分くらいしか提出できず、休み明け初日から数名の仲間たちと一緒に「居残り」…。居残りが終わると運動場で久しぶりに会った友達と遊んで帰る…。遊んでいる途中先生に見つかって「はよ帰らんか～！」と怒鳴られる落ち…。

楽しい小学校生活でしたが、年を経ることに「もう少し勉強しておけばよかった…」との念が浮かびます。長洲小学校の子供達が、意義深い夏休みを過ごしてくれるように祈るばかりです。

シリーズ「自分を語る」＃１０８

少しおさらいをしましょう。

知事部局から帰ってきて案の定の６年担任を任せて頂き、水を得た魚の如く…ではなくてんやわんやの毎日を過ごしていた澤田ですが、どうにか軌道に乗った学級はあちらこちらで結果を出していきます。「ナイトハイク」「キャンプ」と大きな行事を夏休み中に二つもこなし、子供達も私達も充実した毎日を過ごしていた矢先、音楽会の練習中に新型インフルエンザによる学級閉鎖。それにもめげず、他校の白い目をかいくぐりながら、演奏だけとっとと済ませて帰る澤田組。バンド名は「ニュー・タイプ」あちらこちらで演奏することとなっていきました。と、まぁここまでです。では続きです。

そんなこんなで楽しい毎日を過ごす子供達と担任教師なのですが、たまには息抜きも必要です。ある日の授業中、子供達におもむろに一言。

「おい、どっか行こうか？」

「えっ…、どこか行くって…!?」

「何もなかけん、何かこう、おもろくないやろ。」

「でもどこへ？」

「取り敢えず、校区内でどっかなかや？」

「・・・」

「しょうがない、まずは両八幡さんに行こう。あそこは今銀杏がきれいなはずだ。」

伊倉小学校校区には北の八幡様と南の八幡様があって、道を挟んでそっぽ向いた状態で並んでいらっしゃるんですよ。色々な歴史があるらしいのですが、当時はそれを調べる時間も気力もなく、子供達とにかく一緒にいることが楽しかった時代ですから、学校や学級だけでなく違うシチュエーションで子供達と過ごすことにも喜びを感じていました。

１１月の終わり頃だったでしょうか、銀杏の見頃というよりは、銀杏の葉っぱが境内に沢山落ちていて、それはそれは綺麗な光景でした。しゃがんで見ると黄色の海みたいで、そこを泳いでみたくなる衝動にかられるほどでした。で、子供達と一緒に黄色の銀杏の葉っぱを集めて、みんなでその葉っぱを投げ上げます。ま、お決まりの光景ですが、これがまた綺麗でですねぇ。その時の写真も、当時の学級通信に載せましたよ。学級のみんなが笑顔で秋の終わりを感じた場面でした。私は殆ど毎日、特に行事があるときは必ずこの両八幡にお参りに行っていました。「この行事が、子供達の心の中にいつまでも刻まれますようにっ。」と。

１２月はあまり変化のない月ではありますが、子供達にとっては何かわくわくする月のようでした。クリスマスからの正月の流れは、おねだりするには絶好の流れですからね。子供達からも「クリスマス会」の要求が出され、私はいつものように「自分たちで企画運営してくれよ。」ってな感じで子供達にお任せでした。

準備が順調に進んでいるかに見えた１２月初旬の雨の朝、教室の明りが点いているはずなのに点いていません。「何があったのか?」嫌な予感がしました。前年度の落ち着かない状況がまた繰り返されるのか?　昨日までの姿は一体何だったんだ、俺の努力は水の泡なのか!?　速足で教室に近づく澤田…運命や如何に!?　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）